

春の火災予防運動を実施します

3月1日(火)から7日(月)までは、春の火災予防運動期間です。この運動は、火災が発生しやすい時期を迎えるに当たり、火災予防思想の一層の普及を図り、火災の発生を防止し、高齢者を中心とする死者の発生を減少させるとともに、財産の損失を防ぐことを目的に実施しています。

平成27年度全国統一防火標語

「無防備な 心に火災が かくれんぼ」

住宅防火 いのちを守る7つのポイント

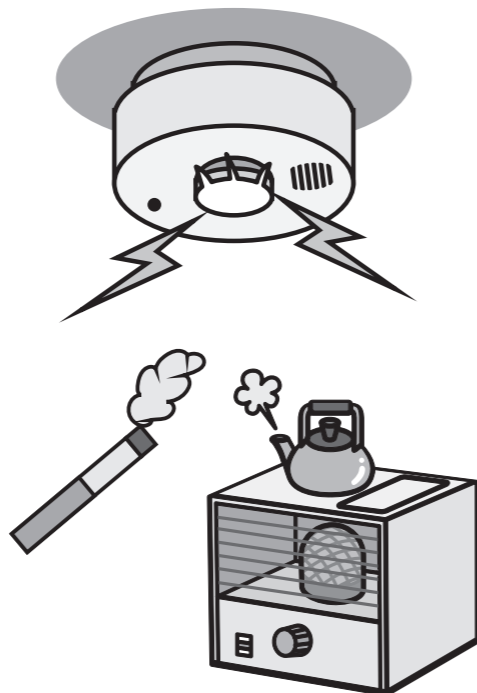
【3つの習慣・4つの対策】

3つの習慣

- ・寝たばこは、絶対やめる。
- ・ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ・ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

4つの対策

- ・逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
- ・寝具、衣類およびカーテンからの火災を防ぐために、防災品を使用する。
- ・火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器などを設置する。
- ・お年寄りや体の不自由な方を守るために、隣近所の協力体制をつくる。



▶問い合わせ 消防本部予防課 ☎550-2121

はしご付き消防自動車を更新しました



更新したはしご付き消防自動車

消防署本署で使用していたはしご付き消防自動車は、高層階での災害発生時の備えとして平成7年度に配備されました。その後、約20年が経過したことによる老朽化、さらにはNOx・PM法の排気ガス規制のため車検の更新ができないことから、消防本部における車両の更新計画に基づき、新規にはしご付き消防自動車を購入しました。

今回配備したはしご車は、25メートル級屈折はしご付き消防自動車で、車両のアームが途中で屈折するようになっています。これにより、消火や救助の作業時に電線や樹木などの障害物を回避しながら、目的の場所により近く接近することが可能となります。また、アームが屈折することで、道路よりも低い箇所にバスケットを下ろし、河川での水難救助などにも活用できます。リモコン式放水銃、照明のLED化、先端カメラおよび監視用モニター装置などの最新鋭の装備も搭載されています。

はしご車を更新したことで今まで以上に安全な活動が期待でき、市民の安心・安全を守っていきます。

▶問い合わせ 消防本部総務課 ☎550-2119



白河市長 鈴木和夫 氏

これまでのご支援に対し、お礼を申し上げる機会をいただき、ありがとうございます。
5年前を振り返ると、震度6強の揺れによる尊い命を一瞬にして奪った土砂崩れなどの大被害に加え、未曾有の原子力事故に足がすくむ思いでした。
そうしたなか、行田市の皆様をはじめ全国各地の方々からいただいた物心両面にわたる温かい援助が私たちの不安を和らげ、勇気づけてくれました。白河市民を代表し、心から感謝を申し上げます。
現在は、道路や公共施設などインフラは復旧し、市民生活も震災前の状態を取り戻しています。また、空間放射線量は、震災直後に比べ大幅に減少しました。

被災地の文化財としては最大級の被害を受けた小峰城は、本丸南面の石垣と三



一般公開された小峰城

重櫓の修復が完了し、昨年4月には約4年ぶりに一般公開できるなど、復興・発展へ大きく舵を切る時期にきています。しかしながら、福島県全体に目を通せば、特に沿岸部では、未だ行方がわからなくなっている人や、故郷に帰還できずに避難生活を余儀なくされている人が多く、復興は道半ばといったところです。
また、風評は依然として根が深く、米や野菜など農産物の価格の下落や取引の停止を招き、観光面でも低迷が続いています。
こうした状況を払拭するため、さまざまなイベントを通して地道なPR活動を続けてきました。特に平成26年度から開催している全国のご当地キャラクターを招いた「ごども夢フェスタ」は好評を博し、昨年は2日間で約17万人が訪れ、安全安心な地元の食や子どもたちの笑顔を全国に発信しました。今年も5月21日から2日間にわたり開催いたしますので、ぜひ足をお運びいただければ幸いです。福島県内の市町村は、今も東日本大震

災からの復興に全力で取り組んでいます。私たちにとって何よりうれしいのは、全国の皆様方に、今の「がんばる福島県」を素直に観て、食べて、飲んで、買って、触れ合って、笑顔の輪を広げていただくことです。
これからも変わらぬ応援を、よろしくお願いたします。



ご当地キャラごども夢フェスタ

東日本大震災から5年を迎えて 友好都市・福島県白河市からメッセージが届きました

いあいやう

福島県白河市長

鈴木和夫